

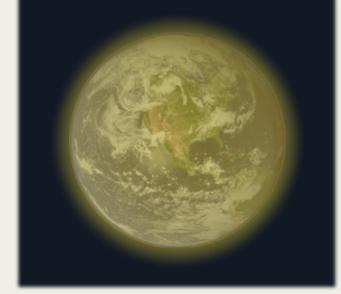
放射線 逃避的建築創生計画

自然災害が頻繁に発生する**未来の世界**では、自然災害が続き、東北大震災やチェルノブイリ原子力発電所事故のように、放射能による事故が多発し、放射線に汚染される日が来るかもしれない。人々は劣悪な状況下で放射線から逃げ惑い、上へ上へと建築を積み上げ、**高層建築**が増加するだろう。そこには欲望にまみれ放射線を回避出来た富裕層と共存を強いられた貧困層の **GL** が存在するのではないか。

1. 本設計における提案

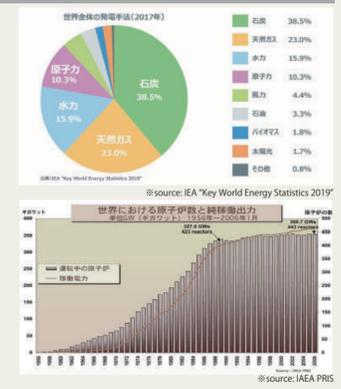
原子力発電と聞くとマイナスなイメージを持つが、果たしてそれは正しいのか。原子力発電を行うことで多大なリスクを伴うことになる。しかし、原子力発電があることで私達の生活が豊かになっているのは事実である。そこで私達は原子力発電と共存する暮らしを考えた。放射線が蔓延した地球において人々が生活するために放射線を遮蔽する装置を設置し、同時に空気の循環を可能とできる建築を提案する。

放射能で汚染された地球

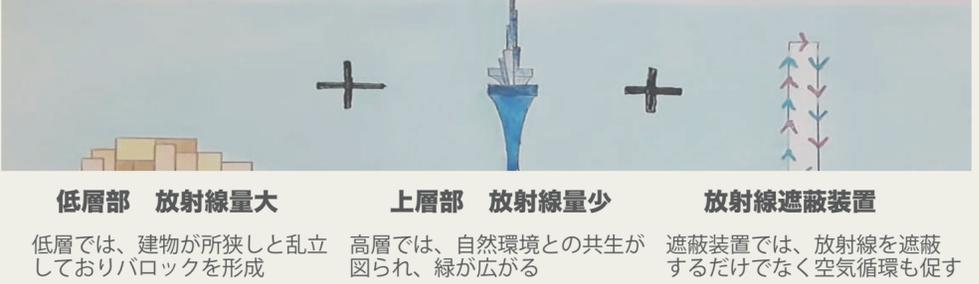


2. グラフから見た現状

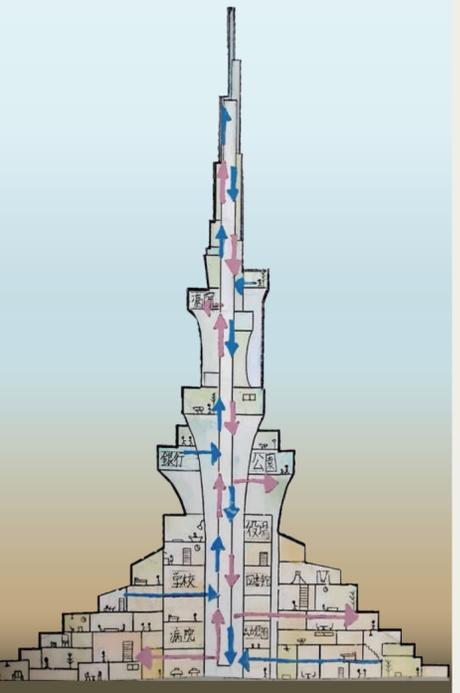
世界全体の発電手法において原子力が約 10% も占めている。現在は石炭や天然ガスが過半数を占めているがこれらの資源がなくなった場合、今以上に原子力発電に依存することになるだろう。また、世界における原子炉の数は上昇傾向にある。将来的に現在以上に原子力発電所が増え、放射線が放出されるリスクも増えると言える。しかしながら、発電や循環システムなどにより、有効活用することができるのではないか。



3. ダイアグラム

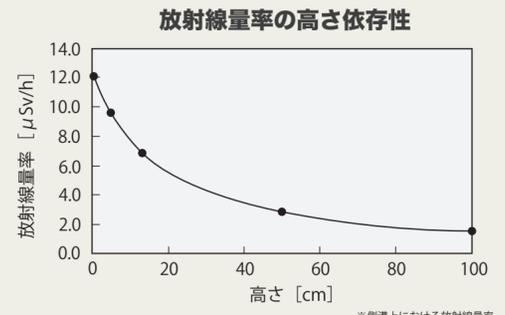


4. 断面系かとシステム解説

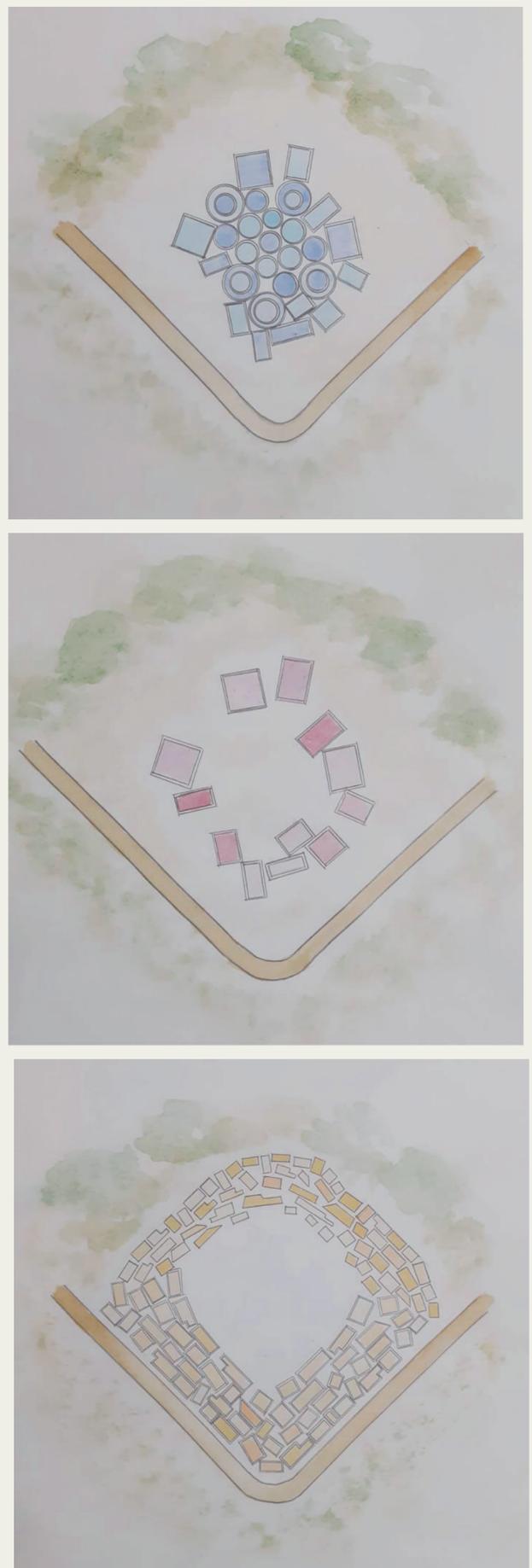


↑ ↓ 空気循環指標

各層ごとに病院や公園、学校などを設け生活基盤 (GL) を確立する。また、放射線遮蔽装置を中心部に設ける。これにより、放射線の透過力を利用して空気の循環を行うことを可能とし、各 GL から汚染された空気を吸収し、装置を通し年全体での空気順化を促す。



5. 平面計画



高

↑

放射能濃度・放射線量

保有資産及び権力における貧富

↓

低

